

会議録	
会議名	第2回三豊市地域公共交通活性化協議会
日時	令和2年8月4日(火) 15時～16時50分
場所	三豊市危機管理センター201・202会議室
出席者	<p>[委員] 15名 宮崎耕輔(会長)、紀伊雅敦(副会長・オンライン出席)、小野英樹、鴨田嘉史、峰久数俊、南壮憲、西丸範生、佐治康弘、齊藤亮、山川勉、藤川泰文、滝口直樹、藤井浩基(近藤委員代理)、手嶋一了、五領田和夫</p> <p>[事務局] 4名 交通政策課(石原課長、細川課長補佐、田尾副主任、伊達副主任)</p> <p>[委託業者] 2名 株式会社地域未来研究所(小野田、義浦)</p>
議事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度三豊市地域公共交通活性化協議会収支補正予算(案)について</li> <li>・三豊市地域公共交通網形成計画基本構想策定スケジュール(案)について</li> <li>・市民の意見や状況を把握するための各種調査の実施(案)について</li> </ul>

発言者	会議要旨
事務局	<開会>
山下市長	1. 市長挨拶
事務局	2. 出席者紹介
宮崎会長	3. 会長挨拶
事務局	4. 三豊市地域公共交通活性化協議会設置要綱及び規約について <説明>
事務局	5. 議事 (1) 令和2年度三豊市地域公共交通活性化協議会収支補正予算(案)について <説明>
宮崎会長	以上の説明について、質問・意見等があれば。  <質問・意見等は特になし、原案承認>

事務局	(2) 三豊市地域公共交通網形成計画基本構想策定スケジュール(案)について <説明>
宮崎会長	以上の説明について、質問や意見等があれば。  <質問・意見等は特になし、原案承認>
事務局	(3) 市民の意見や状況を把握するための各種調査の実施(案)について <説明>
宮崎会長	以上の説明について、質問や意見等があれば。
齊藤委員	アンケートの自由記述の欄に具体例を示した方が親切ではないか。
事務局	ご指摘のとおり。そのように対応する。
手嶋委員	コミュニティバスを利用していない人がアンケートに回答しやすいように、コミュニティバスの情報を合わせて配布してはどうか。
事務局	調査票と合わせて配布する依頼文の裏面に、本市の地域公共交通に関する情報を掲載する予定である。
藤川委員	コミュニティバスにあつたら良いサービスについての設問があるが、その選択肢に、自宅から最寄バス停まで離れている人の利用を促進するサービス、例えば一部区間におけるフリー乗降の導入等を含めてはどうか。
事務局	本市では、フリー乗降についての要望はあるものの、導入していない。理由として、12路線という複数路線を運行しており、コミュニティバスをはじめ、鉄道や航路等の交通機関と乗り換えできるようにダイヤを設定しているためである。フリー乗降を導入するとダイヤの遅れが生じ、乗り継ぎにも影響が大きい。自宅から最寄バス停まで離れている人の利用を促進するサービスに関する選択肢については検討する。
宮崎会長	情報提供に関する項目が細分化されているため、それらを集約し、自宅から最寄バス停まで離れている人の利用を促進するサービスについても追加してはどうか。どのような施策を実施していくかは今後検討していくが、今年10月に制

	<p>度改正され、いろいろなことが柔軟に実施できるようになる。はじめから先入観を持ってしまうと、地域にとって必要なことが実施できない可能性があるため、市民が困っていることを聞き、専門家の意見を聞きながら、地域が使いやすいものを導入していくのが良いと思う。</p>
南委員	<p>公共交通の利用時間帯と行き先について情報収集する必要はないか。また、情報や設備に関する内容が多いが、ダイヤに関するものを追加する必要はないか。</p>
事務局	<p>公共交通利用者アンケートでODの把握ができればと考えている。ダイヤに関する選択肢については検討する。</p>
宮崎会長	<p>ODの把握については、昨年度、都市計画課においてアンケート調査を実施しており、移動実態を把握しているので活用できるのでは。三豊市では、これまでに多くの調査を実施しているが、今年度は国勢調査も実施されることから、それらを踏まえ、調査票を作成したと聞いている。アンケートは全体の傾向を把握するものであり、詳細については地域でワークショップ等を開催し、把握する必要があるのではないかと考えている。</p>
佐治委員	<p>市民アンケート、民生委員児童委員アンケートで免許返納者のサンプルはどのくらい確保できると考えているのか。免許返納者のクロス集計はできるのか。</p>
事務局	<p>免許返納者のサンプル数を事前に捉えることは難しい。市民アンケートのサンプルは無作為抽出であるが、地域のバランスには配慮している。無作為抽出であっても年齢構成はある程度配慮されたものになるため、高齢者において免許返納者の回答も得られるのではないかと考えている。免許返納者のクロス集計については、免許返納の有無に関する設問も設けているため可能である。</p>
宮崎会長	<p>免許返納者に公共交通を使ってもらうためには、免許返納前から公共交通を使えるようになってもらう必要がある。毎日、自動車を利用していても、年に数回は鉄道を利用する人もおり、その利用頻度を増やしてもらう。例えば月に1回公共交通を使ってもらえれば、公共交通の利用者はかなり増える。免許返納前に公共交通を使うことに慣れていれば、安心して免許返納できると思う。</p>
紀伊副会長	<p>今回計画を立案するにあたって、コミュニティバスの路線再編やダイヤ改正について最終的に検討することになるのか。アンケート結果等をもとに、どのようなことを検討しようと考えているのか確認させてほしい。また、アンケート調</p>

	<p>査と乗降調査を実施するとのことだが、路線再編等を検討する場合は、バス停別や時間帯別の利用者数を把握する必要があるが、今回の調査で把握することができるのか教えて欲しい。さらにコミュニティバスを利用している人は、どのように情報を得ているのかについて把握しているのならば教えて欲しい。自動車を使わない高齢者が、コミュニティバスを使って行く場所は、病院やスーパー等ではないかと思う。今回、ゆめタウンの店長にも委員に入ってもらっている趣旨は、どのような路線再編を行えば、利用者にとって望ましいのかについて意見をもらうためだと思っているが、そのような観点から検討する必要があるのではないかと考えている。</p>
事務局	<p>本市は7つの町が合併したまちであり、中心市街地を持たず、それぞれのまちの良さを活かした、多極分散型ネットワークの構築を目指している。今回策定する計画の目的は、そのようなまちを目指していく中で、公共交通はどのような機能やサービスを提供していくのか、また市民が暮らしにおいて移動に困らないためにはどのようなサービスを提供する必要があるのかについて整理したいと考えている。コミュニティバスの時間帯別の利用動向については、利用者アンケートで把握したいと考えている。コミュニティバスの情報提供は市のホームページのほか、紙ベースの時刻表を公共施設や病院、商業施設等で配布している。</p>
五領田委員	<p>これまでの話を聞き、サービスとして、すぐにできないことがないだろうかと考えている。例えば、利用していない人に、利用してもらうきっかけづくりのために運賃を半額や無料にする、公共交通の情報を掲載したチラシを配布する等のキャンペーンを実施しても良いのではないか。ゆめタウンが場所を提供しても良いと考えている。そのような取組は全国各地で実施されていると思うので、他地域の事例を知りたい。コミュニティバスの利用状況についても知りたい。</p>
宮崎会長	<p>民間側からすると、公共交通の計画は5年であるため長期に感じると思う。商業施設と連携した取組は多くあるものの、調整が難しいという実態がある。例えば、スーパーの出入口にバス停を設置した場合、バス車両が駐車場を走行するため、自家用車からクレームが出ることがある。実現できれば良いと思うのは、イートインスペースをコミュニティバスの待合施設として活用すること。実現できそうなこと、実現できない場合はネックになっていることについて、意見をもらうことができればと考えている。コミュニティバスが市民に浸透していないのではという印象があり、そのため利用が少ないのではないかと感じている。</p>
手嶋委員	<p>市町村有償で運行されていることから、三豊市が身を切ってサービスを提供</p>

	<p>している状況にある。運賃が 100 円で地域の足を確保することに重きを置かれていることはわかるが、計画策定に当たっては持続可能性が求められていることから、今後、真剣に考えていかなければならないと思う。</p>
<p>宮崎会長</p>	<p>協議会では、コミュニティバスの路線再編だけではなく、三豊市全体の公共交通ネットワーク、またどうすれば住みやすいまちになるかという、まちづくりとセットにして検討できればと考えている。</p> <p>その他、アンケートについて意見がある場合は、明後日の 8 月 6 日までに事務局まで連絡をいただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p><b>6. 三豊市地域公共交通網形成計画基本構想策定支援業務公募型プロポーザルの結果について</b></p> <p>&lt;説明・報告&gt;</p>
<p>鴨田委員</p>	<p><b>7. その他</b></p> <p>(1) 地域公共交通に関する意見交換</p> <p>タクシー事業とコミュニティバスの運行委託を行っている。コミュニティバスの路線再編は合併後 1 度実施されたが、その後は特になく現在に至っている。高校生の利用のみ増加しており、通勤の利用はほぼなく、高齢者と高校生の利用が主となっている。利用者を増やすには、他の年齢層をターゲットにしていくしかないと思っている。最近では父母ヶ浜が観光地として全国的に有名になったため観光客の利用が増えているが、外国人の対応に苦慮している。また、JR については詫間駅しか IC カード改札機が設置されていないので、どうにか対応して欲しいと思っている。</p>
<p>峰久委員</p>	<p>離島航路を運航している。離島航路とコミュニティバスの接続に苦慮しているが、できる限り対応できるように取り組んでいる。運航はなかなか厳しい状況にあるが、外からの来訪者をどうにか取り込みたいと思っている。</p>
<p>南委員</p>	<p>IC カード改札機の設置については多くの要望があり、利便性向上策として重要であることは認識しているが、設置費用のほかランニングコストが高く、なかなか実現していない。詫間駅は観光利用が多いため、IC カード改札機を設置している。鉄道事業は利用者減少のほか、労働力不足、設備の老朽化の問題を抱えている。JR 四国として、持続可能なネットワークを構築することが重要な課題となっており、四国の鉄道ネットワークの在り方に関する懇談会の開催により、四国の鉄道、公共交通をこれからどうしていくのかという議論を進めている。こ</p>

	<p>れまでは鉄道のみ考えていたが、これからは他の交通モードとの連携が必要であると考えている。</p>
西丸委員	<p>道路管理者の立場から参加している。国道でのバス停の設置の際に相談を受けることが主になると考えている。新しくバス停を設置する際は、安全性を重視していく必要がある。また、ゆめタウン近隣の国道の道路拡幅事業を実施しており、渋滞解消により間接的にコミュニティバスの定時性に寄与することができるのではないかと考えている。</p>
佐治委員	<p>道路管理者の立場から参加している。コロナ禍で公共交通が厳しい状況にあると感じている。三豊市のコミュニティバスはルートが放射状になっているため、高松市や丸亀市のように循環バスがあったら便利だと思うが、7町が合併していることもあり、なかなか難しいと思っている。</p>
齋藤委員	<p>去年は500人程度、今年も現時点で230人程度が免許返納しているが、返納後、どのような生活をしているのかわからない。ひとり暮らしの人の免許返納は少ないのではないかと想定しており、これから先、免許返納者数は頭打ちになるのではないかと考えている。免許返納者が、スムーズに安全に利用できる公共交通サービスの提供を警察の立場から協力できればと思っている。</p>
山川委員	<p>特に意見はない。</p>
藤川委員	<p>高齢者率が高くなっているため、生活利便性を考えると、コミュニティバス等を利用しやすくすることにより、生活の幅が広がり、充実した生活を送ることができると思っているので、そのような方向で議論ができればと考えている。</p>
滝口委員	<p>三豊市社会福祉協議会では、地域福祉に特化した活動をしている。免許返納者や障がい者が、通院や買い物において、行きたいところに行けるようにできれば、住みよいまちになると思っているため、より良い公共交通ネットワークや計画をつくることができればと考えている。</p>
藤井代理	<p>県の役割として、市町をまたぐ広域交通を維持確保するように努めている。昨年度は、四国の鉄道ネットワークの在り方に関する懇談会を開催し、県内の鉄道がどうすれば持続可能なものになるのかを検討し、今年の4月から取組を実施する予定になっていたが、コロナ禍により事業者の存続について知恵を絞っている状況にある。コロナ禍が落ち着いたら、ウィズコロナでの公共交通ネットワ</p>

	<p>ークについて検討したいと考えている。</p>
手嶋委員	<p>四国運輸局に7月1日に配属されたが、それまでは本省で働いていた。本省では、入省2～3年目に公共交通に携わっており、その後、道路局、文化庁に出向し、現在に至っている。趣味は山城巡りであり、中世城郭に行くのが好きで、公共交通なしではなかなか巡ることができず、公共交通の重要性を普段から感じている。交通は基本、派生需要であり、市民生活や来訪者の足の確保はもちろんのこと、隠れた移動需要の掘り起こしを関係機関が連携して実施していく必要がある。</p>
五領田委員	<p>コロナ禍の店の状況であるが、4月から客数が15%減少、感染者が発生すると3割減少している。お盆の帰省等もあり、これからの計画を立てにくくなっている。まずは地域から感染者を出さないことが重要だと思っている。</p>
小野委員	<p>公共交通は地域活性化、まちづくりの根幹だと思っている。本市は3人に1人は高齢者であり、交通弱者の人口割合が多い地域である。このため、先進的に取り組んでいかなければならず、英知を結集して地域の課題を打破していかなければならない。そのような状況の中、交通弱者は増加しているのに対して、公共交通利用者は減少しているのは、何らかい問題があるのではないかと考えている。問題点を捉え、本来のあるべき公共交通について協議会で検討したいと思っている。</p>
紀伊副会長	<p>GTFSというバス情報の研究をはじめたところだが、GTFSによりGoogleでの検索ができるようになり、外国人への情報提供、対応ができるようになる。また交通モードのシミュレーションの研究もしており、公共交通ネットワークによる利便性の変化についても検討できることから、計画策定に貢献したいと考えている。</p>
事務局	<p>(2) 次回協議会について      次回の協議会は10月頃に開催したいと考えている。現地調査も実施する予定であり、後日、事務局より連絡する。</p>
宮崎会長	<p>以上で、第2回三豊市地域公共交通活性化協議会を終了する。</p>